

【概要版】第4期静岡市水素エネルギー利活用促進アクションプラン

水素エネルギー利活用促進ビジョン

【目標】 【目標達成に向けたプロジェクト】

水素エネルギーを利活用した「静岡型水素タウン」の実現

水素エネルギーの普及拡大

水素利用の促進に向けた情報発信

燃料電池を活用した機器の普及拡大

技術革新などに伴う水素エネルギー導入可能性の検討

各種モビリティへの利用拡大も含めた需要創出

清水港を活用した水素エネルギーの利活用

グリーン水素供給拠点地の整備

港湾部の特性を活かした需要の創出

周辺地域への水素輸送

IoTを活用した水素エネルギーの利活用

水素ステーションで製造した水素利用用途の拡大

水素ステーション周辺で水素、電力、ガスなどをIoT技術を活用し最適管理

未利用エネルギーを活用した水素エネルギーの利活用

温泉付随ガス(メタン)と微生物を活用した水素製造

自立分散型エネルギー供給システムの確立

水素エネルギー利活用促進アクションプラン

【具体的事業】 【指標】

★子ども向けの環境教育

科学館や小中学校での環境教育実施

★学校教育への組み込み

学習教材の確立

★イベントや防災訓練等での燃料電池自動車の活用

各種イベント等での活用、普及啓発

★燃料電池自動車の試乗モニター制度の実施

試乗モニター制度の運営

★普及初期における導入支援

静岡型水素タウン促進事業補助金、FCバス導入補助金、ZEH化補助金

★産業用燃料電池の導入支援検討

産業用燃料電池の技術革新状況の把握とモデル事業の検討

★純水素型燃料電池の活用検討

純水素型燃料電池の技術革新状況の把握と活用策検討

★水素事業伴走型支援に向けた検討

各種水素事業に対する伴走型補助事業構築に対する検討

★水素需要拡大に向けた新技術開発等に対する支援

グリーン関連新技術開発に対する補助

★技術開発の動向等の意見交換、課題解決の検討

静岡市水素エネルギー利活用促進協議会の運営

★グリーン水素を用いた水素ステーション整備の支援

グリーン水素供給設備事業補助金、運営開始

★港湾部における需要創出の検討

港湾管理者(県)や関係事業者等との検討・協議

★周辺地域の需要創出及び輸送方法の検討

港湾管理者(県)や関係事業者等との検討・協議

★用途拡大に向けた先進事例研究

技術革新状況の把握と市域での導入検討

★導管・パイプライン整備に向けた先進事例研究

技術革新状況の把握と市域での導入検討

★水素生成リアクター実証実験の実施支援

水素生成能力の高効率化、分離技術の研究

★適地調査

★温泉資源を活用した供給システムの研究支援

分散型エネルギー生産システムの研究

<2022実績> <2024目標>

水素を活用したまちづくりを必要と思う市民の割合

91.1% ⇒ 92.0%

燃料電池(家庭・業務)

2,739台 ⇒ 5,420台

モビリティの水素需要規模

約3t/年 ⇒ 14t/年

清水みなとエリアにおける水素サプライチェーン構築

(港湾特有の多様なモビリティに向けた供給体制の整備)

関連協定の締結済

⇒ 自動車向け供給の開催

水素ステーションを核とした面的利用に向けた検討

—

⇒ 実証実験に向けた調整の実施

山間部における自立分散型エネルギー供給システムの確立

実験段階

⇒ 実証研究の実施

<静岡市の水素エネルギー利活用の方向性>

第3次静岡市地球温暖化対策実行計画

計画期間: 2023年度から2030年度まで

目 標

水素エネルギーを利活用した「静岡型水素タウン」の実現

<SDGs(※)と関連付けた基本的視点>

教育

水素社会に対する市民・事業者の受容性喚起

エネルギー

エネルギー産業の

イノベーション

成長・雇用

安心・安全なまちづくり

都市

温室効果ガスの排出削減

気候変動

※ SDGs(持続可能な開発目標)とは、平成27年9月の国連サミットで採択された2030年度までの世界共通の目標(17のゴールと169のターゲット)

<目標達成に向けたプロジェクト>

(共通プロジェクト)

水素エネルギーの普及拡大

(都市部プロジェクト)

IoTを活用した水素エネルギーの利活用

(港湾部プロジェクト)

清水港を活用した水素エネルギーの利活用

(山間部プロジェクト)

未利用エネルギーを活用した水素エネルギーの利活用

第4期静岡市水素エネルギー利活用促進アクションプラン

計画期間: 2023年度から2024年度まで

具体的事業・指標

・事業内容

・スケジュール

・指標(現状、目標)